



TITLE:

## 第3回国立大学図書館協議会シンポジウム(西地区)開催される

AUTHOR(S):

---

CITATION:

第3回国立大学図書館協議会シンポジウム(西地区)開催される. 静脩  
1990, 26(3): 17-18

ISSUE DATE:

1990-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37068>

RIGHT:

のみでなく、同時にその周辺の関連事項も見ることができた。しかし、端末検索ではその情報しか見ることができない。これは研究者にとって大きなマイナスではないだろうか。その他利用者側から、耳に入ったこと述べておく。

1. コンピュータ導入をし、今までのカード目録検索より不便になってはいないか？
2. 基本として、何処の場所（例えば研究室）からでも検索できる、OPACシステムの導入が早急に実現できないのか？

これは、ほんの一部分の意見にすぎない。そこでわれわれは何をすべきなのであろう。利用者に対してアンケート調査等の手段を使い意見を聞き、それを取入れ、利用者にとって最良のシステムを導入することを、目標にしなければならない。その目標ポイントは何か。それは、目録操作が簡単で検索を進めて行く中での Step-by-step の指示及び利用者の能力に応じた検索法（メニュー方式・コマンド方式など）の用意をする。また、書誌レコードの多様なディスプレイ・フォーマットの用意をし、目次などの書誌レコードへの追加とそれからのアクセスポイントの作成オンライン目録における貸出情報の提供を含む所在情報提供等々の機能を、オンライン目録は備えていてこそ、利用者の希望のものに一步近づくのではないか。

われわれ、図書館職員にとって導入のプラス面はあるのであろうか。このことについては、研修における、ある事例をここにあげてみよう。コンピュータ導入前は、1万5千冊の図書の滞貨があ

ったが、導入1年後においては、図書館職員が納品されてくる図書を、ただちに処理できる状態にあるとの報告があった。軌道に乗れば、図書館職員の仕事量の省力化にはなるであろう。しかし、ここで考えなければならないのは、図書館職員の仕事を電算化するということは、ユーザーに対してよりよいサービスをするためであって、けっして、図書館職員だけが満足するような電算化にはならない。

電算化が進歩するにつれて図書館職員の専門性というものが、失われていくのではないか。今までなら情報源である図書を1冊1冊考えながら、目録を採っていくのが図書館職員であった。しかし、これからはコンピュータ導入によって、またどんどんパッケージの開発が進むにつれて、何も考えなくてもただ端末に向うことによって、仕事が機械的にすむ状態になると、考えられるからでもある。図書館職員の専門知識がなくても誰でも端末に向えば入力できるようになる。話は極端ではあるが、近い将来そういう時代がくることは、目に見えている。そこで、図書館職員の進むべき道は何かを考えながら、なおより一層努力し、今まで以上のエキスパート（専門家）になるように、勉強していくことがこれからの図書館員の課題ではないか。

最後に、研修において他の大学の方々と横の繋がりが出来たことは、この研修におけるもう一つの目的ではなかったかと思う。

---

### 第3回国立大学図書館協議会シンポジウム （西地区）開催される

国立大学図書館協議会は、昭和62年7月に本協議会において設置された「外国出版物購入価格問題調査研究班」の報告の趣旨を周知させ、それらの内容を討議し、外国出版物の購入について国立大学図書館の適切な対応の方法を検討するため、

東西二地区の会場でシンポジウムを開催することとし、西地区については平成元年11月16日（木）から17日（金）の2日間、関西地区大学セミナーハウスを会場として、44大学、48名の出席をえて開催された。

大学図書館は外国出版物の最大の市場にかかわらず、国立大学における外国出版物特有の様々な制約から、国内出版物と比較すると合理的価格設定及び購入手続き等が行われてきたと言い難く、大学が主体的に予定価格算出上の根拠を確立し、従来の契約方法の見直しをする等、外国出版物購入事務の改善を図るとともに、近年における外国為替相場の変動に対する適切な対応が必要とされる。この前提をもとに「外国出版物購入に関する諸問題の改善に向け」以下のサブテーマが検討、討議された。

#### サブテーマ（１）競争原理の導入と価格問題

一般競争入札に付した外国図書購入契約に関する事例報告及びそれに係る契約事務の検討。

#### サブテーマ（２）予定価格の算出

外国出版物における予定価格の算出方法ならびに算出結果の分析及び予定価格算出の今後の課題を討議。

#### サブテーマ（３）価格格差の解消に向けて

##### （その１）流通経路の改善

外国図書における直接購入の実施経過の報告と、それに係る予定価格算出方法および外国雑誌における並行輸入の促進に関する諸問題を討議。

#### （その２）出版元定価における差別価格について

海外において起因する不適当な価格設定の問題、いわゆる出版元定価における差別価格の実態について紹介され、不当な価格差別の解消に向け日本国内の対応だけでなく、I F L A等の国際的機関と連携し、今後解決していくことを合意。

今回のシンポジウムは、それぞれのサブテーマに示されている外国出版物がかかえている価格問題、流通経路の改善ならびに差別価格の問題について活発な討議がなされ、実務上参考となるものが多々あった。また、このシンポジウムによりできたネットワークを活用し、今後これら問題を個々の大学で努力し、大学間で情報の交換を行い協力し解決していくことを確認しシンポジウムを閉会した。

## 「京都大学図書館業務 関係規程集」の刊行

このたび附属図書館では、「京都大学図書館業務関係規程集」1989年版を刊行した。

これは、現行版が1982年に刊行されて以来、相当年数が経過しており、この間に附属図書館の新館への移転や近年の図書館関係業務の大幅な見直しに伴い、関係諸規程も改廃等整備されたものが多く、関係者から改訂版作成の要望があったものである。

この規程集は、1989年5月現在（一部、5月以降のものを含む。）の成文化された学内の関係規程等を、管理、利用、文献複写・図書撮影等の各関係別に分類のうえ収録しており、図書館（室）勤務者の業務の円滑な遂行のためにご活用いただきたいと思っている。

## 英文図書館利用案内の紹介

外国からの留学生増加にともない附属図書館でも外国人の図書館利用者が急増しています。

このため附属図書館では、留学生のための英文利用案内の改訂版をつくりました。この案内では、図書館のサービス時間、図書・雑誌のほか、施設の配置図を含め業務全体にわたって図書館サービスのアウトラインが一目でわかるように説明してあります。このパンフレットは、最初の利用申込み（ライブラリーカードの交付）と同時に配布できるよう受付カウンターにおいてあります。

なお、附属図書館では、留学生用図書として、日本の歴史、風俗、芸能等日本関係の洋書約300冊を購入しており、観光案内、地図等は一階の参考図書コーナーにまとめてあります。